

令和 3 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

学校長 上 原 正 樹

評 価 日	令和 3 年 2 月 1 8 日 (金)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
	1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ○自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進について ・湖陵が新しく開設したInstagramやYouTubeの配信は良いと思うが、掲載頻度に学科の偏りがあるようだ。学校全体のバランスを考えたほうが良い。 ・分散登校期間中の自宅学習にタブレットを活用しているのか。また、令和4年度からは生徒全員がタブレットでの授業に取り組めるのか。 ・タブレットを使う能力が生徒に必要なになってくる。中学までのレベルまで教えているのか。中高の連携が必要ではないか。小学生でも長期休業中に自宅にタブレットを持ち帰り使用している。子どもたちにICT機器を使いこなせる能力が求められている。 ・調べ学習でタブレットを使うのは古い。中学校では実習で自分の作業の様子を撮影し授業に活用したり、生徒間で共有している。また、修学旅行では班毎のミーティングでタブレットを持ち寄り振り返りなどしている。小学校では、アサガオの観察日記など低学年の児童でもタブレットで撮影して音声吹き込む方法に変わってきている。 ・鳥取湖陵高校の生徒は、大学入試の総合選抜試験等に力が発揮できそうなので積極的に受験させてはどうか。 ○協同の学びで自他を高める教育の推進について ・鳥取湖陵高校とはたくさん交流をしてもらっている。子どもたちと楽しく触れ合っている生徒の姿を見ると、自分の好きな学習ができているから生き生きとしているのだと思う。人間環境科の保育実習(年2回)では生徒の成長が見られ、子どもの扱いが上手になっている。緑地デザイン科の園芸交流は、花植えなど子どもと一緒に活動してもらったが、交流後も花壇の様子を見に来てくれてありがたく思っている。コロナ禍で家ではできないことをやってもらえると、保護者からも好評。また、写真部には幼稚園のHPのトップページや入園ポスター等に写真を提供してもらっている。来年度も交流	・Instagram等の掲載内容に偏りがないよう配慮し、効果的に発信していきたい。 ・情報科学科ではiPadを購入しているので活用頻度が高く学校から自宅へ授業配信も適宜している。 ・分散登校期間中は、全ての授業で授業時間の10～20分程度は生徒に配信(課題や学習指示等)できるよう推進。 ・来年度入学生からのタブレット導入に向けて、小中学校のICT使用状況も参考にし、高校の取組につなげていきたい。 ・生徒の特性や個性を十分発揮できるようキャリア教育を推進していきたい。 ・今後も近隣の施設や学校、企業等に積極的に学校を開放し、本校の教育資源の提供による各種交流や連携に取り組んでいきたい。コロナ禍でも工夫しながら、地域とともに学ぶ経験を重ねることで、生徒の学びを深め、地域に本校への理解を深めていただく機会としていく。

をお願いしたい。 ○学びを創造する力を高める教育の推進について ・ICT活用と基礎学力の定着が今後の課題。また、アクティブ・ラーニングと基礎学力の定着も大事にしてほしい。形骸化せず、生徒自身にとって何が身に付いたか残るような取り組みにしてほしい。 ○業務改善について ・鳥取湖陵高校では、時間外業務時間の月平均が年々減ってきているが、どうやったら減るのか教えてほしい。 (2)説明・公表について ・特になし。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ・鳥取湖陵高校と鳥取大学とは農業・工業で似たような学科構成。歩いて行ける近距離でもあるので一緒に連携できることがあればやりたい。鳥取湖陵高校は昔から食品加工が有名。鳥取大学の食品加工は弱い。鳥取湖陵高校の食品加工の良い施設を有効利用できたらと考えている。現在共同研究開発しているイチゴ抽出酵母研究だけでなく他にも進めていきたいと考えている。 3. 取組改善のための提言 ・中学校としては「湖陵の特色はこれだ!」ということが中学生や保護者に言えるようにしたい。進路説明会ではどの高校も同じような説明。「うちの学校ではあれもできる、これもできる」と言われるが、逆に各校の特徴がわかりにくくなっているようだ。今の中学生には県立志向はない。私学に人気が集まるのは発信力が上手いから。鳥取湖陵高校もポイントを押さえた、短く明確なキャッチコピーが必要ではないか。	・今年度から「朝トレ」のテキストを「SPI問題集」に変更。難易度を上げることで基礎学力の定着を図る。 ・本校の数値はあくまでも平均。部活動に顧問を複数つけることで一人に時間が集中しないようにしている。 ・鳥取大学にはふるさと納税の返礼品として、本校の生産物を推薦してもらい感謝している。今後も食品加工分野だけでなく広く高大連携を深めていきたい。 ・本校は、進学も就職も含め卒業生の100人以上が地元に残っている。最も県内に人材を輩出している高校。このような特徴について中学生や保護者にわかりやすくアピールできるように工夫していきたい。
--	--